

(1)

図書館だより

九里学園高等学校
図書委員会
印刷 (株)川島印刷
TEL 21-5511 (代)

アラビアンナイト 終わらない夢物語



皆さんは「アラジン」を知っていますか？思い浮かべるのは、デイズニー映画「アラジン」でしょう。魔法のランプや青い魔人、空飛ぶじゅうたんの出てくる冒険物語は、子供から大人まで愛される有名な物語です。実は、この物語は「千夜一夜物語」という物語集の一部なのです。「アラビアンナイト」という呼び名でも親しまれています。

○シエヘラザードの語る物語

アラビアンナイトにはたくさんのお話が入っていますが、ひとつ「核となる物語」があります。

ある国の王様が妻に裏切ら

れ、女性を信じられなくなり、その後、王様は一夜限りの妻を迎えは翌朝には殺してしまおうになりました。そんな中、名乗りをあげたのは宰相の娘シエヘラザードです。彼女は王さまの元にお嫁に行き、毎晩物語を語りました。「次の夜になりましたら、お話の続きをおきかせします」シエヘラザードは、王の行いを止めるため王さまに次の話への興味を持たせて一夜一夜生き延びていきました。

アラビアンナイトは、シエヘラザードが命をかけて語った物語集です。この物語は「核物語」といい、アラビアンナイトの大枠となる物語です。またアラビアンナイトは長い年月を経て変化していきま

○成り立ち

- ① 東洋では、口伝で、おとぎ話や民話など様々な話が伝わっていた。
- ② ペルシア（現在のイラン）の王様たちの命令で口伝が盛んに本にまとめられていった。
- ③ フランスの東洋学者ガランが「アラビアンナイト」の

超訳者たちの存在

アラビアンナイトにはいろいろなバージョンがある。翻訳者の「超訳」によって雰囲気のがうバージョンができた。「アラビアンナイト100分 de 名著」によると、下記の4つに分類されている版は、現在でも広く読まれている。

図書館には「レイン版」



エドワード・レイン

子ども部屋には「ガラン版」



アントワヌ・ガラン



1) チャード・パートン
どぶには「パートン版」



ジョン・ペイン
書斎には「ペイン版」

- ⑤ 続編が読みたいという声があがり、様々な国から似たような物語を探して、物語を増やしていった。
- ⑥ アラビアンナイトブームが起り、世界中に広がっていった。さらにアラブでも再認識され、評価されていく。
- ⑦ 今も愛される世界文学になつていく。

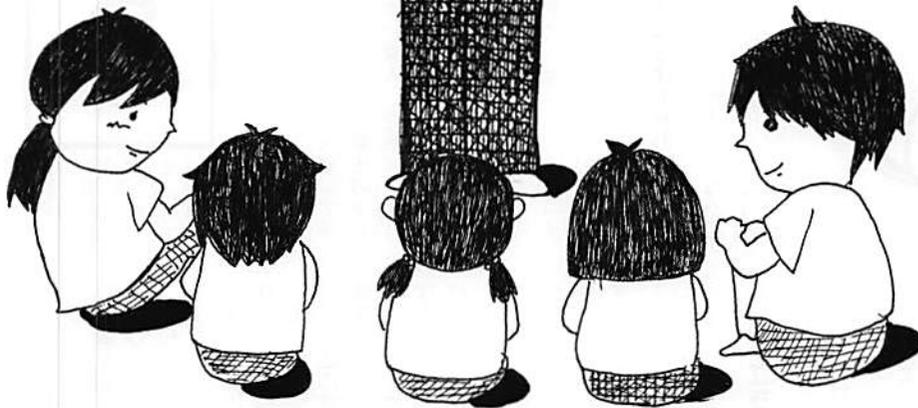
アラビアンナイトは、ヨーロッパと中東という二つの文明の間を行ったり来たりしてできた珍しい物語集です。またアラビアンナイトは底本（もととなる本）がないため、どんどん新しい物語が加えられ、世界最長のファンタジー物語集となったのです。



学術的で堅苦しい訳である。
2) 2) は河川に流された川の子

絵本特集

今回は紹介者が
テーマに沿った
絵本を紹介します。



『おへそのあな』

長谷川義史 著

(BL出版)

心が踊る絵本

『パン どうぞ』

彦坂有紀・もりといずみ 著

(講談社)

3年4組 長澤 祐美 さん

生徒

教師

神尾 典子 先生

この絵本は、お母さんのお腹にいる赤ちゃんからの目線で書かれています。赤ちゃんがお母さんのおへその穴から、お兄ちゃんやお父さんやお祖父ちゃんなど家族の様子を見えています。家族みんなが赤ちゃんの誕生を心待ちにしている様子が描かれています。

この絵本では、赤ちゃんも早く家族に会いたいという気持ちも感じられます。イラストも温かみがあってお腹の中にいる赤ちゃんの気持ちも伝わってきます。読んでいく私達もウキウキワクワクするので、ぜひ読んでみてください。



お互いの誕生日に絵本を贈りあう友人がいる。彼女とは高校で出逢った。当時は「スクールカースト」なんて言葉はなかったけれど、地味な私がなぜ「運動部で彼氏がいる」彼女と親しくなったのかは現在も謎である。いつまで続くかわからないが、彼女から贈られた何十冊とある絵本を、人生が終わる前に誰かへ贈ることができたらいいなと考えている。

日本の伝統工芸「浮世絵」と共に発展してきたといわれる木版画。木版画で表現されたパンはどれも本当においしいそう。彦坂木版工房の木版画展があると知り東京まで足を運んだが、絵になる前の版画は想像通り美しかった。お菓子作りが得意な彼女へ、今年は「ケーキやけました」を贈ろうと思っている。

パン どうぞ



『おまえ うまそうだな』

宮西達也 著
(ポプラ社)

心が育まれる絵本

『さんまいのおふだ』

石崎洋司 文・大島妙子 絵
(講談社)

3年3組 江口 亜弥 さん

生徒

教師

高木ユキエ 先生

今回紹介する本は、「おまえうまそうだな」です。この本は、ティラノサウルスとアンキロサウルスが出会い、一緒に過ごすうち、種族が違うのに親子のようになっていくお話です。この絵本は、小さい頃に読み聞かせなどで聞いたことがあると思います。今、読み返してみると、タイトルのインパクトや内容とのギャップが感じられると思います。食べる食べられるような関係でも、種族を超えた絆が魅力的な本です。絵本なので簡単に、理解しやすいので、気軽に読むことが出来ます。とても心あたります。絵本です。ぜひもう一度読み返してみませんか。



皆さんもご存知のこのお話は、小僧さんが三枚のお札を使って、怖いおばばから逃げ帰ってくる話。とてもスビード感があったり私は大好きです。それと同時に、この話から学べることも多いと思います。

まず一つに、お札は、トイレの神様からいただいたものです。きっと小僧さんは、いつも和尚さんの言いつけを聞いて真面目に修行していたから、ピンチの時に神様が味方してくれたのでしょう。次に、そのお札を使うタイミングが絶妙です。怖いおばばが迫ってきている状況でも、冷静に考えて使えたのが偉いと思います。他にも皆さんの生活や人生に活かされる場所がたくさんありますので、ぜひ読んで参考にしてください。



『えんとつ町のペペル』

にしのおきひろ 著
(幻冬舎)

心がふるえる絵本

『ちょっとだけ』

瀧村有子 作・鈴木永子 絵
(福音館書店)

3年5組 田村 萌花 さん

生徒

教師

遠藤 愛 先生

「信じぬくんだ。たとえひとりになっても」

四〇〇メートルの崖にかこまれたえんとつ町の町。くろい煙にとじこめられて、あおい空をしらない。かがやく星をしらない。ハロウインのまったただなかの町のゴミ山に心臓がおちて生まれた、ゴミ人間。バケモノ扱いされてため息をこぼした時に、ルビッチという少年に出会います。ルビッチに「ペペル」と名付けられ二人は仲良くなります。去年冬に波にのまれ死んでしまったルビッチの父。そして、落としてしまった、唯一の父の写真の入った銀のペンダント。「やめてよルビッチ、はずかしいじゃないか。」ハロウインは死んだひとの魂が帰ってくる日。子どもも大人もこの奇跡に感動するはず。



「ちょっとだけ」赤ちゃんが生まれ、お姉ちゃんになったなつちゃん。お母さんは赤ちゃんの世話で忙しいので、なつちゃんは一人で何でもやってみようと頑張りました。

「ちょっとだけ」できるようになり、お姉ちゃんになったからと「ちょっとだけ」で我慢しているなつちゃん。眠くて甘えなくなったときの「ちょっとだけ」甘えたいというなつちゃんの言葉が切なくなります。お姉ちゃんになったことで、「お姉ちゃんだから!!」と我慢している姿、自分でやってみようと成長していく姿に切なくなるれしくなります。読んだ後に娘を抱きしめたくなる絵本です。



読書の楽しみ

夜の読書

佐藤 真帆 先生
(理科)

「あと一ページだけ」、「あと一章だけ」、「よし、一冊読み終わったら寝よう」。こんな調子だから私が読書をする日次はたいてい寝不足になってしまう。

小さい頃は絵本を読んでもらうのが好きだった。寝る前に布団の中でよく母が絵本を読み聞かせてくれた。きれいな絵を見るのが楽しかったし、何よりもお話の展開にわくわくしながら聞いていた。

夜の読書はドキドキする。ストーリーにのめりこんで次の展開にドキドキするのはもちろんだが、早く寝ないと次の日起きることが出来なくなる、という焦りからくるドキドキの方が大きい。「早く寝ないといけないのに面白すぎて、読みたくて本を閉じることができない!」という読書欲に襲われながらページをめくる手を止めることができない。

なぜ睡眠不足になりながらも本を読むのかは、きっとただ単純に読書が好きだからだ。好きなことに熱中してしまうとなかなか中断できない。最初の一行で「おや、この話は面白そうだな」と思ったらあつという間に本の世界にのめりこんでしまうのである。おかしい場面では声をあげて笑ったり、悲しい場面では思わず涙したりすることもある。ときには自分の経験と似ている物語に出会って驚くこともある。興味

のままに開いたその本で心が温まって得した気持ちになることもある。今日はどんな感動と出会うのだろうか。そんなことを考えながら今夜もまたページをめくる。



私の好きな

主人公

3年3組 江口 亜弥



柚木麻子著

『アッコちゃん
シリーズ』の
アッコさん

働く女性の悩みを解決してくれる本「アッコちゃんシリーズ」。シリーズで「ランチのアッコちゃん」「3時のアッコちゃん」「幹事のアッコちゃん」の三冊が出版されています。私はメインキャラクターの黒川敦子さんが好きです。

彼女は「アッコさん」と呼ばれる大女で、黒髪のおかっぱ頭、いつも厳しい雰囲気を持ったポーカーフェイスな女性です。ときに身勝手な高圧的な態度となる所もあるアッコさんですが、実は自分の信念をしっかりと持って仕事をしている女性なのです。私にはないものを持っている、とてもあこがれます。

「3時のアッコちゃん」で、澤田美智子さんの会社の会議にアッコさんが仕事として関わった場面があります。澤田さんは契約社員でしたが、ある企画会議で進行役を任せられます。会議室を押さえて、声がけをして、進行役をして、議事録を作って、つまむお菓子を用意して、お茶を配って、といった雑用も含めた役割でした。最初は思うように会議が進まなく、進行役である澤田さんは困っていました。時間ばかり過ぎていき、良い案

も出ません。そんな時アッコさんのアドバイスで会議が上手に進むようになります。きっかけの一つは「お茶とお菓子」です。イギリスでは、会議でお茶を用意することは場の主導権を握ることとされています。そんなイギリス人は政治に強く、会議上手いといわれているとアッコさんは教えてくれます。

「会議は毎日三十分だけ」
今まで進まなかった会議が人の手によって変えられることをアッコさんのアドバイスで澤田さんは知っていきます。登場人物たちがアッコさんに振り回され、ときに叱咤激励されながら成長していきます。私も読みながらアッコさんには叱咤激励されている気持ちになりました。読むと、元気になれるので、悩みがあるときにぜひ読んでみてください。

編集後記

今回の図書館だよりは、スムーズに完成するか心配でしたが、原稿を書いて下さったみなさんのおかげで無事に完成いたしました。ご協力ありがとうございました。今年絵本特集を紹介しています是非絵本を手にとって読んでみてください。

(山口 琉奈)